

平泉寺の史跡を知ってほしいと 現場説明会を開催

世界遺産登録をめざす史跡平泉寺のすばらしさに触れていただこうと、教育委員会主催の「平泉寺史跡見学会」がお盆の頃の8月15、16日の両日にわたり開催され、市内外から約60名の参加がありました。

参加者の皆さんは、石段を登り平泉寺の境内を歩いて発掘現場まで行く道すがら、歴史的な由来や当時の状況などについて、説明を受けました。

この見学会には、歴史漫画『白山平泉寺物語』の漫画を担当された明珍博子さんも参加され、「平泉寺はまだ発掘の途中。これから何が発掘されるか興味を持ち、耳で聞いて足で歩くことで、新たな発見を楽しめます。今後も説明会は続けてほしいです。」との思いを語られました。

奈良県から帰省中の大学生の森石悠輔さん(21)は、「大学で文化財を専攻しています。この貴重な文化財をもっと市民のかたに理解してもらわなくては。」との感想でした。

この見学会は、今後も引き続いて開催を予定しているとのこと。



宝珍学芸員から発掘現場の説明を受ける皆さん

HOT話題

平泉寺白山神社境内の苔を守る クリーンキャンペーンも15年目

白山国立公園の一角を占め、中世の歴史を今に伝える平泉寺白山神社境内は、平成13年に杉と蘚苔のかおりがすばらしいと「かおり風景100選」に選ばれ、観光客などからも定評があります。

勝山観光協会では、その美しい風景を平泉寺区民とともに守ろうと8月26日の早朝にクリーンキャンペーンを実施し、今年で15年目を迎えました。

(社)観光協会の呼びかけに、観光ガイドボランティアクラブや勝山ライオンズクラブなどの団体、市内企業や市職員ボランティアなど総勢約100人が集まり、苔の間に生えている草を手で摘んだり、菩提林の道の両脇の雑草を刈ったりしました。

通常は苔が生えている所は立入禁止のため、参加者の皆さんは年に一度のふかふかとした苔の感触を楽しみながら作業に当たりました。



苔の間に生える雑草を丁寧に摘み取る参加者の皆さん

勝山でダンスイベント開催

8月18日、市民会館大ホールにおいて勝山市青年団体連絡協議会主催によるダンスイベント「遊舞(あそび) ささぎ」が開催されました。

今年で3回目となる同イベントは、ストリートダンスのコンテストで、石川県や滋賀県、愛知県などからも参加があり、総勢約100人のダンサーが集まりました。会場には大音量で様々なダンスミュージックが響いており、音楽に合わせて体を揺らす観客などもいました。

ステージでは、逆立ちしたり頭で回転したりと、派手なパフォーマンスを繰り広げた「プレイングバトル」、基本的には立った状態でロボットのように踊ったりする「フリースタイル」、団体に自由に踊る「シヨークース」の3部門が行われ、DJが即興で選んだ音楽に乗って、思い思いの演技を披露していました。

当日は午後1時から始まり、8時までの7時間という長時間のイベントでしたが、ダンサー

たちは息を切らしながらも、自分のダンスで訪れた約200人の観客の目を釘付けにしていました。



ステージでは多彩なダンスが繰り広げられた

出会いふれあい

仲間 GROUP

全国高文祭・郷土芸能(和太鼓)部門最優秀

勝山高等学校日本文化部

8月1日、2日の両日にわたって鳥根県浜田市で開催された全国高等学校総合文化祭・郷土芸能部門に、勝山高・福井農林高校の合同チームが出場し、最優秀賞となる文部科学大臣賞を受賞しました。またこれに伴い、8月25日、26日には東京の国立劇場での東京公演に出場し、迫力ある勇壮な演技を披露しました。

8月22日には、チームを代表して、主将の田島遙奈さんと松浦美加さんが市役所を訪れ、山岸市長に報告を行いました。

市長は、「伝統文化は日本人の根っこの部分。皆さんの成長を期待しています。」とエールを送ると、田島主将は「チームワークがとれて、素晴らしい結果になってよかったです。この結果を励みにこれからも頑張っていきたいです。」と笑顔で応えていました。

太鼓は文化ですが、バチを握った手は血豆だらけ、腕には筋肉が付き、汗だくの練習など、内容



(写真提供: 勝山高等学校)

勝山を盛り上げたい

福の依 岡田峰典さん(29) 北郷町東野

6月18日に本町通りで居酒屋がオープンしたと専らの評判となった「福の依」さん。店長は、福井市の居酒屋で下積みを経験を積むために3年間頑張ってきた岡田峰典さんで、荒土町布市の出身です。「勝山市には居酒屋が少ないので、中心市街地に店を構えて夜の賑わいにつなげ、勝山を盛り上げたい」と前から考えていました。」と岡田さんは言います。

福井で働きながら不動産情報をチェックしていたところ、本町通りの以前洋品店だった空き店舗を斡旋されました。店舗前には本町通り、横にはまちなか整備事業できれいに整備されたお種坂があり、後町や河原町通りへとつながるなど地理的条件に恵まれています。店舗は、歴史的まちなみ景観

すてきに人生



創出事業補助金制度を利用し、町家風建築に仕立て上げました。「店内は、カウンターを中心に炉端風の店構えにすることで、昔ながらの温かさを備えた人間味のあるお店にしました。」と店造りへの思いを語る岡田さん。「やって良かったと思うのは、本町商店街のかたが温かく迎えてくれたことです。日ごろ、何かとお世話になっているので、この店が本町通りの活性化の一端にでもなればと思います。」と岡田さんはしみじみとした表情で語りました。

最後に岡田さんから「今後は、お客さんの要望に少しでも応えられるよう、成長していきたいです。」と抱負を聞かせていただきました。